

喫した北東北の旅

町民空の旅

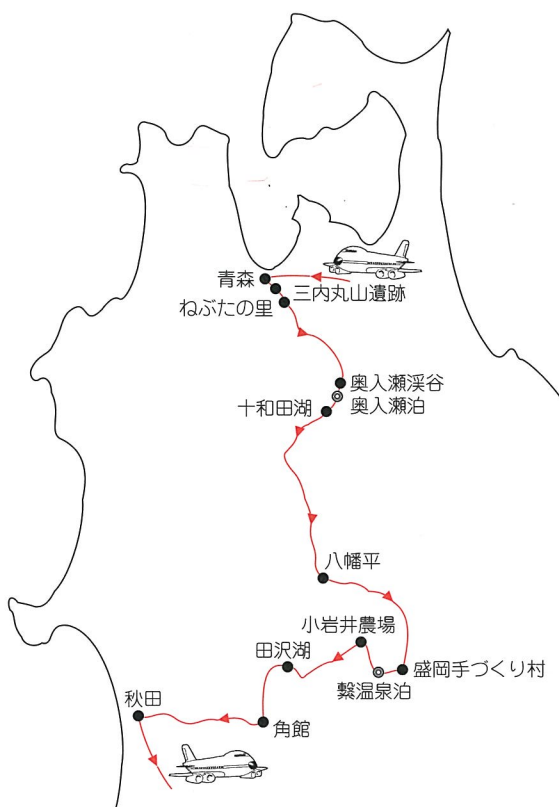
新緑と伝統が印象に残る

旅を通して親睦を深め、楽しいひとときを過ごしていただく「元気アップ町民空の旅」。今年で11回目になる町民空は6月3日～5日の2泊3日の旅程で、ねぶたで有名な「青森」、宮沢賢司ゆかりの地「岩手」、みちのくの小京都・角館の「秋田」と東北三県を訪ねました。



「ねぶた」の前で記念撮影する1号車のみなさん

6/3～6/5



雨の降る中、午前5時に役場を出発、羽田空港から一路青森空港へ。心配された雨も降っておらず、幸先のよいスタートとなりました。

4台の観光バスに分乗した一行は、古代ロマンの香る三内丸山遺跡へ。復元された堅穴住居、掘立柱建物などを見学しました。ねぶたの里では、ねぶたの運行体験や「ハネト」と呼ばれる踊り手と一緒に踊りの体験、青森の夏の風物詩「ねぶた」の雰囲気味わいました。新緑の奥入瀬では、白糸の滝や銚子大滝などの名勝を見学、「紅葉の頃に

は訪れたことはあるが、この時期は初めて」との声も聞かれ、流麗な渓谷美を堪能しました。

夜の宴会では、各バスの代表者によるカラオケや隠し芸、ひかり音頭の輪踊りなどで楽しく一夜を過ごしました。

2日目は、日本でも有数の透明度をほこり神秘的な水をたたえる十和田湖の遊覧を楽しみ、東八幡平で昼食、樹海ラインからアスピーテラインを通り、盛岡手づくり村へ。盛岡手づくり村では、南部鉄器・南部せんべい・竹細工など、伝統的な「技と芸」に触れました。

3日目は、約3000haの広大な敷地面積をもつ小岩井農場に立ち寄り、牧歌的な風景を眺めながら出来たてのアイスクリームを賞味しました。日本一の深さで知られる田沢湖では、車窓から伝説の「たつこ姫」の像を見学、その後「みちのくの小京都」といわれる角館へ。ここでは、桜の皮を使った伝統工芸品の榿細工や城下町の風情を残す武家屋敷を楽しみました。

たくさんさんの思い出をつくり、多くの人とふれあいを深めることができた素晴らしい旅となりました。